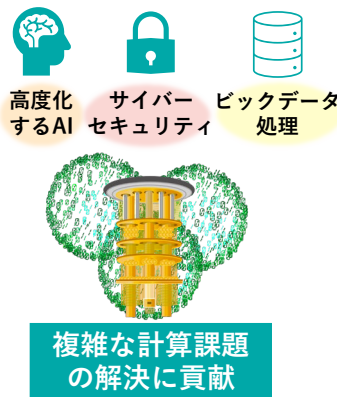


計算の限界を超える世界に挑む次世代技術

かつて世界では、情報共有や情報格差などの課題があった。しかし、**インターネットの登場**により情報は瞬時につながり、新たなサービスやビジネスモデルが次々と生まれた。今では、インターネットは企業・暮らしを支える社会基盤となっている。

一方、現在は**新たな課題**に直面している。AIの高度化やサイバーセキュリティ対策など、膨大な計算能力を必要とする技術が発展するに伴い、従来のコンピュータでは解決に多くの時間を要するケースが増えている。こうした「**計算の複雑化**」に対する新たなアプローチとして期待されているのが**量子技術**だ。

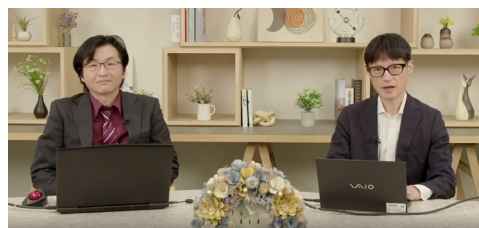
量子技術はもはや単なる研究テーマではなく、世界各国は次世代の産業基盤として位置づけ、研究開発や人材育成への投資を加速させている。多くの企業にとっても、量子技術は「まだ先の話」から「**備えを始めるべきテーマ**」へと変わりつつある。



今回視聴したウェビナ

今回は、一般社団法人 日本量子コンピューティング協会の認定講師・茨城支部長である今村功一氏と、リョーサン菱洋株式会社が主催するウェビナを視聴した。

本ウェビナでは、量子技術の基礎知識、市場動向、日本の国家戦略に加え、量子コンピュータの発展に伴うセキュリティリスクについて解説された。量子技術の現状と今後の展望を俯瞰できる内容となっており、企業が今後備えるべきポイントへの理解を深めることができた。

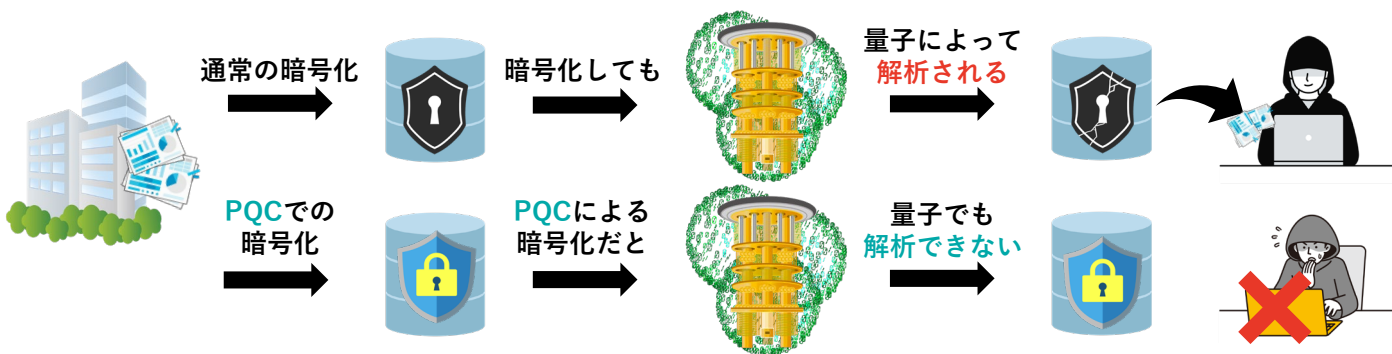


【登壇者】

(左から) 一般社団法人 日本量子コンピューティング協会 認定講師・茨城支部長の今村 功一氏、リョーサン菱洋株式会社 セールスプロモーション部 江田 昌隆氏

量子時代の悪意ある解読から自社のデータを守る暗号技術

量子コンピュータが普及することによって登場する**新たなリスクがセキュリティ**だ。従来の暗号技術は現行コンピュータでは解読に長い時間を要する、という前提での安全性が示されている。しかし、量子コンピュータはその前提そのものを覆す可能性を秘めている。現在では実質的に解読不可能とされる暗号も、将来的には解読されるリスクが指摘されており、企業には「攻撃が起きてから」ではなく「攻撃が可能になる前」の今、対策が求められている。そのカギとなる技術が、耐量子計算機暗号(PQC)である。



参考：26/05/14開催 「はじめての量子コンピュータ入門 ～市場動向・国家戦略・PQCまで60分で理解する～」を視聴した内容を基に図式化

まとめ

- 量子技術は、我々の世界をまた一步前進させる技術であると同時に、社会や企業が長年築き上げてきた仕組みの見直しを迫る技術でもある。
「量子時代の到来に向けて今何を準備すべきか。」
この問いへの答えを出す段階に来ている。技術動向を理解し、量子による自社へのリスク・恩恵の影響を見極めながら準備する姿勢が求められると考える。

ウェビナ視聴・編集：山田 勇次

お問い合わせ先

リョーサン菱洋株式会社 セールスプロモーション部
リョーサン菱洋テクラボ 編集長 山口功一郎 (ko.yamaguchi@rers-grp.com)